

インターオプト 2020 報告



最先端光技術の国際展示会である、インターオプト 2020 を 1月 29 日（水）～1月 31 日（金）の 3 日間、東京ビッグサイトにて開催した。

今回より、開催場所を東京ビッグサイトに、開催時期を 1 月下旬に変更すると共に、同時開催展示会も、従来からの「LED JAPAN」「Imaging Japan」「MEMS センシング&ネットワークシステム展」に加えて、新たにナノテクノロジーの国際展示会である「nano tech」等の 11 展示会を加えた全 15 展示会へと変更した。これにより、光技術から MEMS、ナノテクノロジーまでを網羅する総合技術展示会として開催することとなった。

インターオプトは当協会が主催し、株式会社 JTB コミュニケーションデザインが企画・推進、経済産業省ほか多数の団体の後援・協賛を得て開催している。（今回、後援・協賛をいただいた団体を文末に掲載）

出展分野は、レーザ／光源、光素子／部品、材料、光機器／装置から光産業関連のサービス／ソフトウェアまで広範囲にわたり、出展品目を通して光関連材料から光応用システムまでの幅広い技術が展示された。

インターオプト単独では、国内外の光関連メーカ、商社など 74 社、97 小間の出展があった。また光関連 3 展示会とマイクロマシン展の 4 展示会合計では 188 社、202 小間であった。開催期間 3 日間の登録来場者数は、相互入場を可能とした nano tech 他全 15 展示会合計で 47,692 名を数え、展示ホールは多くの来場者で溢れ、非常に活気のある展示会となった。

展示ホールでは、恒例の「注目される光技術・特別展示ゾーン」を設置し、光技術動向調査委員会の各分科会から推薦を受けた企業 6 社が当協会からの出展支援を受けて技術・商品を展示とともに、「注目される光技術セミナー」での講演を実施した。一方、当協会ブースでは、光産業・技術の概要を写真・パネルにて展示、特に光産業・技術に関する調査研究に関しては、各種調査報告書の展示、技術情報レポート等の無料配布など、当協会の活動の紹介、光産業および光技術の最新情報の提供など広報活動を行った。

会議棟 6 階 606 会議室では、初日の 1 月 29 日に OITDA セミナー「自動運転に向けた光技術」を開催した。セミナーは、自動車ジャーナリストの桃田健史氏による、自動運転をとりまく世界市場の現状と今後の見通しについてのご講演に続き、自動運転の実現に向けた最新光技術について、各分野の第一人者の先生方より、4 つのご講演をいただいた（講師とテーマは下記の写真を参照のこと）。今後の発展に大きな期待が

寄せられる自動運転を支える最新光技術に関するセミナーであることもあり、5講演合計で延べ330名の聴講者で賑わった。



桃田 健史 氏（自動車ジャーナリスト）
『世界市場での自動運転実現化で
大幅軌道修正の理由』



藤吉 弘亘 氏（中部大学）
『AIの視線を可視化してAIを知る
—深層学習の判断根拠の可視化—』



秋田 時彦 氏（豊田工業大学）
『自動運転・運転支援のための車載画像
認識技術—過去から最新動向まで—』



馬場 俊彦 氏（横浜国立大学）
『Si フォトニクスを用いた
スローライト LiDAR』



各務 学 氏（名古屋工業大学）
『車載光イーサネットの標準化
—しくみと世界のプレイヤー—』



今回のインターポトに後援・協賛をいただいたいた団体は次の通り。

後援（4団体）： 経済産業省、独立行政法人日本貿易振興機構、公益財団法人日本科学技術振興財団

一般財団法人対日貿易投資交流促進協会（順不同）

協賛（16団体）：公益社団法人応用物理学会、一般社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人電気学会

一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人精密工学会、一般社団法人日本電機工業会

公益社団法人計測自動制御学会、一般社団法人日本電線工業会、一般社団法人日本光学会

一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会、特定非営利法人日本フォトニクス協議会

一般社団法人レーザ学会、一般社団法人レーザ加工学会、レーザ協会、

レーザー輸入振興協会、一般財団法人マイクロマシンセンター（順不同）